



第4章 重点 プロジェクト

4.1 重点プロジェクトの位置づけ

目黒区の持つ地域特性や環境の課題等を踏まえ、本計画の目標を達成する上で、優先して展開する重点プロジェクトを以下の視点を踏まえて設定し、推進していきます。

前回の計画では、「『風の道』づくり」、「地域のグリーン化」、「地球温暖化対策の推進」を重点プロジェクトのテーマに掲げ、取り組んできましたが、本計画ではそれらを下記のように発展させます。

設定の視点と重点プロジェクト

視点1
区民や事業者との協働に
より推進すべきもの

区における多種多様な環境問題に的確に対処していくためには、区民や事業者の参画、協力が必要不可欠です。それぞれの役割分担のもと、相互に協力しあい、連携を図ることによって課題解決を図ります。

視点2
先導的役割を
果たすもの

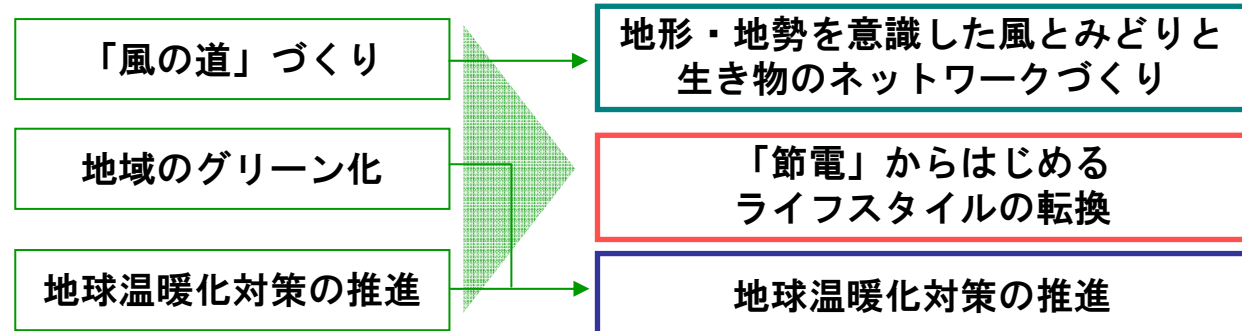
計画の目標を達成するために特に重要で、他の施策を推進する上で先導的な役割を果たすとともに、複数の基本目標の達成に関連するものを取り上げます。

視点3
優先的・戦略的に
取り組むべきもの

区の環境の現況を踏まえ、優先的かつ長期的に取り組む必要な課題を、戦略的な視点から取り上げます。

前回の計画

本計画



なお、重点プロジェクトは、10年間の計画期間の間に、施策体系の中から率先して取り組むべきものを掲げており、プロジェクトの進捗状況や時代の変化に合わせて見直していくものとします。

- 重点プロジェクトのテーマは相互に関連を持つものであり、重点プロジェクト間の連携によって、より総合的な環境の向上を図るものとします。
- また、各テーマはレベル1から3へと段階的に進めていくことを基本としますが、取り組みやすい事柄からはじめ、PDCAサイクルによりその成果や改善点をフィードバックしながら、次の取組へ進めていくこととします。

4.2 重点プロジェクトの展開

テーマ 1

地形・地勢²⁰を意識した風とみどりと 生き物のネットワークづくり

意義

前回の計画では、みどりを増やし、水環境の保全や回復を高めることによって、「風の道」づくりを推進してきました。目黒川沿いではその周辺に比べて気温の上昇が抑制されていることが確認されています。

また、自然豊かな地域を育むとともに、都市においても、生き物とのふれあいや学びを通じた人づくりの観点から、生物多様性の確保が重要視されてきています。

そこで、本計画ではヒートアイランド対策としての風の道づくりを発展させ、「風と生き物の道」を新たなテーマとして展開していきます。核となる大規模なみどりの保全や目黒川の水質改善、小さなみどりや水場等の生き物が生息できる場所（ビオトープ的な地点）の創出を図ります。生物の生息環境の向上を通じて、地形・地勢を意識した風とみどりと生き物のネットワークづくりを推進します。



ユリカモメ（目黒川船入場）



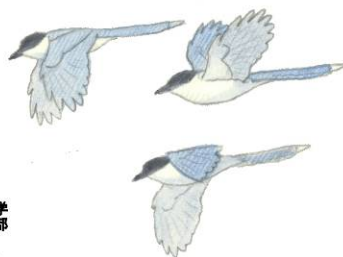
坂のあるまち

²⁰ 地勢とは、土地のありさまを意味します。土地の高低や傾き、地質など土地そのものの状態を指したり、山や川の配置、海に面しているなどの環境面も包括し、幅広く使われる言葉です。

風とみどりといきもののネットワーク イメージ



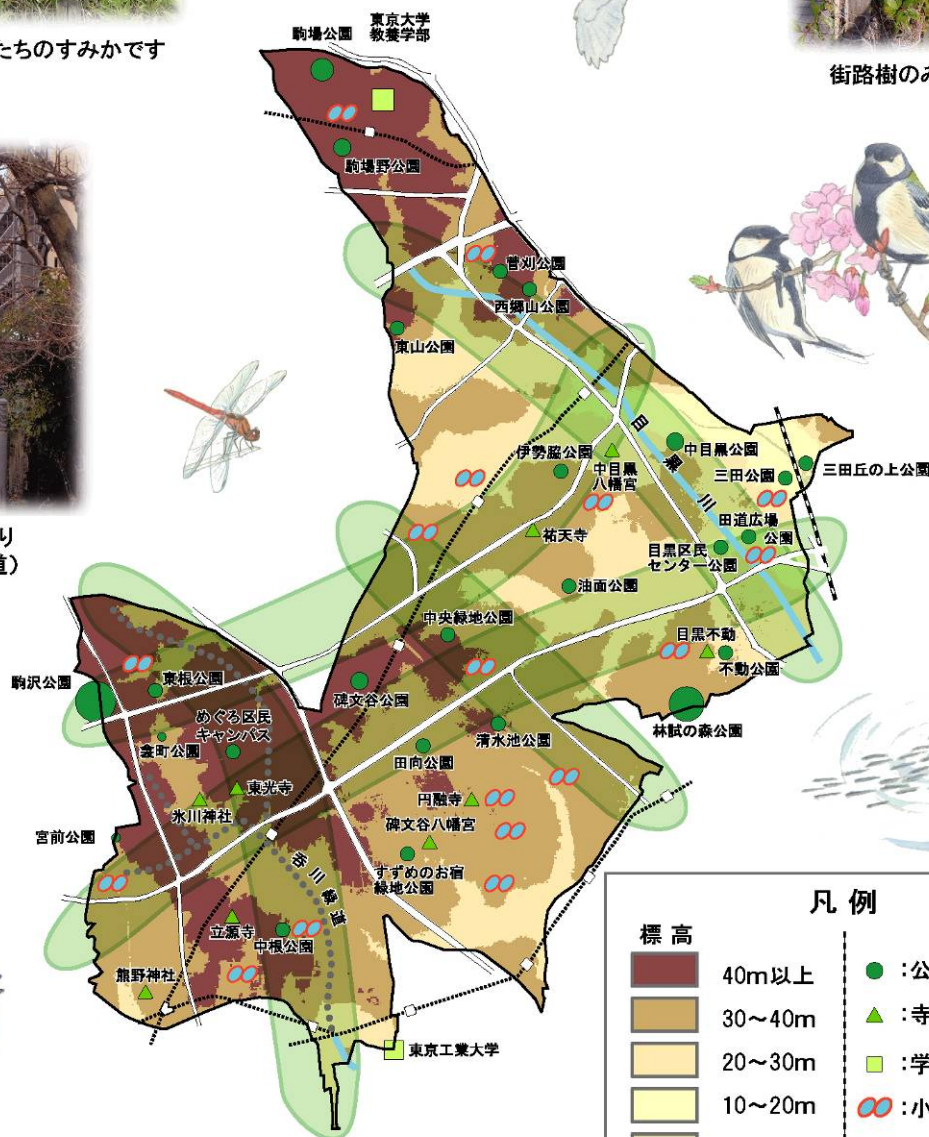
ここは生き物たちのすみかです



街路樹のみどり



緑道のみどり
(蛇崩川緑道)



いきもの発見隊
(目黒川)



学校ビオトープ
(中根小学校)



公園のみどり
(都立林試の森公園)



内容（進め方）

このプロジェクトでは、まず、すでにあるビオトープの調査を行い（レベル1）、地域にビオトープ的な地点を創出すること（レベル2）また、ビオトープをつなぐみどりを増やし、地域のビオトープを保全・管理する人々のネットワークを形成すること（レベル3）を想定しています。



カワセミ（目黒川船入場）

【レベル1】 川や坂など目黒区の地形が持つ自然の役割の把握

- ・ 目黒区の地形の把握
- ・ 生き物の生息状況調査等の解析・発信
- ・ 学校等区内のビオトープのモニタリング調査
- ・ ビオトープの効果検証 等

【レベル2】 ビオトープ的な地点の創出（保水の観点も含めて）

- ・ 公園等公共用地へのビオトープ整備
- ・ 家庭、事業所、公共施設等における雨水貯留
- ・ 落ち葉の堆積する林づくり
- ・ 民有地の緑化における生物配慮
- ・ 大規模緑地の保全（大学、社寺等）
- ・ 目黒川の水質改善 等

【レベル3】 風と生き物が結ぶ人・地域のネットワーク形成

- ・ 拠点の緑地・ビオトープをつなぐみどりの形成（道路や民有地の小規模緑地でつなぐ）
- ・ 地域住民によるビオトープの保全・管理
- ・ 各ビオトープを管理する住民同士の交流、連携 等

拠点から面へ
風と生き物が行きかう環境の形成

各主体の役割

主 体	取 組 例
区 民	・ 家庭におけるビオトープ的な地点づくり（屋上・壁面緑化、花壇づくり等） ・ 区内の自然・生き物とのふれあい、学習イベント、講座への参加 ・ 生き物調査、公園の管理運営等への参加 等
事業者	・ 事業所におけるビオトープ的な地点づくり（屋上・壁面緑化、雨水貯留等） ・ 大規模開発時の緑地の確保 等
区民活動団体 （商店街、自治会等）	・ 地域コミュニティ単位でのビオトープ的な地点づくり（緑化、花壇づくり等） ・ 身近な公園等の管理への参加 等
関係団体 （小中学校・大学）	・ 学校の緑化、ビオトープの管理 ・ 大学敷地内の大規模緑地の保全、活用 ・ 自然、生き物とのふれあいを通じた環境学習 等
区	・ 公共施設における緑化の推進 ・ 公共施設における雨水貯留・浸透施設の整備、保水性舗装・遮熱性舗装の実施 ・ 目黒川の水質調査、水質改善に向けた取組 ・ みどりを育てる区民、団体への支援 等



野の花クラブ活動（駒場野公園野草園）



中根小学校のビオトープ

テーマ 2

節電からはじめるライフスタイルの転換

意義

東日本大震災の影響による電力需給バランスの悪化は、今後数年間にわたる大きな課題であり、これまでの枯渇性エネルギーに依存した私たちのライフスタイルそのものの見直しが迫られています。

区では近年、若者の転入が多く、単身世帯ではごみの分別の意識が薄いといったアンケート結果が出ている一方で、エコバッグやマイはしを持ち歩く、車に依存せず自転車を活用するなどの環境にやさしい行動を、さりげなく日常生活の中で実践する若者も増えています。

このような環境にやさしい活動が、すべての世代で、ごく自然に当たり前に行われる社会になったとき、ライフスタイルの転換が実現したといえるでしょう。

差し迫った重要な課題である「節電」を、暮らし方を変えるきっかけとして捉え、ただ我慢するだけではなく楽しみながらエコに取り組む気運を高めることが期待されています。

そこで、環境にやさしい行動を賢く選択する暮らし方を「めぐるスマートライフ」と名付け、「目黒ブランド」として確立することを目指し、(仮称)目黒エコブランド提案会議を立ち上げるなど、区民・事業者等へ新しいライフスタイルを提案する仕組み・場をつくります。

提案会議では、区内で環境保全活動に取り組んできた人々の知恵と、環境志向の若者のライフスタイル、昔ながらの和の暮らしの良さの融合を図りながら、環境に負荷の少ないグリーンエネルギー²¹を取り入れた心地良い暮らしを提案し、人々が環境にやさしい生活ができるようにしていきます。



打ち水大作戦（めぐる区民キャンパス）

²¹ グリーンエネルギーとは、風力や太陽光、バイオマス、小規模水力などの自然エネルギーや再生可能エネルギーのことです。従来の枯渇性エネルギーとは異なり、地球環境に対して負荷の少ないエネルギーをいいます。

内容（進め方）

このプロジェクトでは、すでに節電に取り組んでいる生活から生まれるアイデアを発信し（レベル1）、また、地域で環境保全に取り組んでいる人々や節電生活を始めた人々が提案プロジェクトに参加する（レベル2）ことにより、「めぐろスマートライフ」を確立し、広く発信していく（レベル3）ことを想定しています。



和館の雪吊り（駒場野公園）

【レベル1】 節電生活の普及促進 （震災を機にはじまる節電社会）

節電生活から生まれるアイデアの普及例）

- ・ 家庭の節電アイデア募集
- ・ 地域コミュニティ単位の節電の取組推進
- ・ ライトダウンイベントの実施（キャンドルナイト、月見の会）
- ・ くらしの低炭素化キャラバン（白熱球一掃プロジェクト）
- ・ 地域の環境イベントとの連携 等

【レベル2】 新しいライフスタイルの提案プロジェクト （低炭素な暮らし、循環のくらしへ）

（仮称）目黒エコブランド提案会議の立ち上げ例）

- ・ 大学、専門学校等、多様な主体との連携
- ・ 昔ながらの生活の知恵・工夫（古民家体験）
- ・ 区民提案募集ウェブサイトの立ち上げ
- ・ 区民アイデアによるエコ商品開発 等

【レベル3】 めぐろスマートライフの 確立・発信

- ・ 環境志向の若者のライフスタイルと昔ながらの暮らしの融合
- ・ 地域・事業者・大学等との連携による環境プロジェクト立ち上げ
- ・ めぐろスマートライフの外部への発信

環境・産業・暮らし方の融合による
めぐろスマートライフのブランド化

各主体の役割

主 体	取 組 例
区民	・ 日常生活における節電行動の実践、節電アイデアの提案 ・ (仮称)目黒エコブランド提案会議への参加、提案 ・ 環境イベントや講座等への参加 ・ 「めぐろスマートライフ」への転換 等
事業者	・ 事業活動における節電行動の実践、社員への環境教育 ・ (仮称)目黒エコブランド提案会議への参加、提案 ・ 区民アイデアによるエコ商品開発への協力 ・ 環境にやさしい商品・サービスの開発・提供 等
区民活動団体 (商店街、自治会等)	・ 地域コミュニティ単位での節電の取組推進 ・ (仮称)目黒エコブランド提案会議への参加、協力 ・ 地域の環境イベントの実施 等
関係団体 (大学・専門学校)	・ (仮称)目黒エコブランド提案会議への参加、協力 ・ 大学の研究室、研究機関等との連携によるエコ商品・技術開発 ・ 服飾・デザイン学校との連携によるエコファッションショーの開催 等
区・外郭団体等	・ 節電の取組の率先実行、区民・事業者への情報提供 ・ 家庭・事業所等における節電アイデア募集、普及啓発 ・ (仮称)目黒エコブランド提案会議の設置、運営支援 ・ 区民提案募集ウェブサイトの立ち上げ 等



駒場野公園での炭焼き

テーマ 3

地球温暖化対策の推進

意義

京都議定書目標達成計画を勘案し、区全域における温室効果ガスの排出抑制に向けた施策を定めた「目黒区地球温暖化対策地域推進計画」の計画期間は平成 24 年度に終了します。

国における地球温暖化に関する状況については、森林吸収量の確保及び海外クレジットの取得を踏まえれば京都議定書の 6%削減約束を達成する水準であるとしています。国は、2050 年までに 1990 年比で 80%削減する目標を掲げていること、さらに、循環型社会を構築するに当たっては資源の枯渇や産業構造の変化の可能性等を踏まえて考えていく必要があるとしています。

こういった状況を踏まえ、区においても、中長期を見据えた地球温暖化対策を推進する必要性があり、グローバル²²な視点から「目黒区地球温暖化対策地域推進計画」を見直し、区民、事業者、区民活動団体、区等の多様な主体が、互いに連携・協力できる仕組みづくりが求められています。

現在の状況を把握し、取組を分かりやすく見える形で情報発信することで、各主体に求められる行動が明確になり、これまで以上に住環境整備やライフスタイルの変革が図られ、低炭素社会の実現が可能となります。

地球温暖化対策は地球規模の問題ですが、区における取組を未来に広がる低炭素社会づくりの基準となるような施策展開を推進していきます。



めぐろエコの森記念植樹
(区民センター)

²² グローカルとは「グローバル（世界的）」と「ローカル（地域的）」を掛け合わせた混成語です。「地球規模で考えながら自分の地域で活動する」ことの重要性を端的に表す言葉としても使われます。

²³ オフセットとは、英語で「相殺・埋め合わせ」を意味します。地域における環境負荷の削減を最大限努力した上で残る環境への負荷について、他地域の環境を保全・創出することで、区内で発生する環境負荷をトータルとして相殺する考え方をいいます。（例えば、友好都市で植樹を進めることで区内 CO2 排出を相殺する等）

²⁴ エコロジカル・フットプリントとは、人間の生活や事業などがどれだけ自然環境に依存しているかを、自然資源の消費量を土地面積で表すことでわかりやすく伝える指標のことです。自然生態（エコロジカル）を踏みつけた足跡（フットプリント）を意味します。

²⁵ フードマイレージとは、輸入食料の総重量と輸送距離を乗じて数値化したものです。フードマイレージが大きければ大きいほど、環境に負荷を与えていることになります。

²⁶ グリーン熱とは、グリーンエネルギーによって発電された電力・熱のことです。消費者がグリーン電力・熱を選んで購入することができるプログラムも含まれます。

内容（進め方）

このプロジェクトでは、まず、グローバルな視点で、中長期を見据えた目黒区地球温暖化対策地域推進計画の見直し（レベル1）、その計画に基づき、低炭素社会形成に向けた住環境整備につなげていくことを想定しています（レベル2）。その後、取組効果の見える化やオフセット²³の仕組みづくりの検討（レベル3）を進めます。



民有地の屋上緑化

【レベル1】 目黒区地球温暖化対策地域推進計画の推進と中長期を見据えた取組への転換

平成 24 年度までの取組

- ・ 日常生活・事業活動における省エネルギーの推進
- ・ 新エネ・省エネ機器の導入・普及
- ・ 公共交通機関の利用促進
- ・ エコドライブ、環境にやさしい自動車の率先導入・普及促進 等

平成 25 年度以降の数値目標・施策の見直し

- ・ 中長期的な目標設定
- ・ グローバルな視点からの施策推進

【レベル2】 低炭素社会形成に向けた住環境整備

- ・ エコモデル住宅・マンションの啓発
- ・ 再生可能エネルギーの導入促進（太陽光、太陽熱、マイクロ風力等）
- ・ 街路灯などの LED 化推進
- ・ 屋上緑化・壁面緑化の推進
- ・ 温暖化適応策の検討 等

【レベル3】 区域を越えた環境への負荷の見える化とオフセットの仕組みづくり

- ・ 取組の見える化と情報提供
- ・ 目黒区独自の見える化指標の検討
例）エコロジカル・フットプリント²⁴、フードマイレージ²⁵ 等
- ・ オフセットの仕組み検討、導入
例）グリーン電力・グリーン熱²⁶、区民出資発電所、区外での森づくり 等

各主体の役割

主 体	取 組 例
区民	・ 日常生活における省エネルギーの推進 ・ 省エネ型家電製品への切替、再生可能エネルギーの導入 ・ 住宅の新築、改築時のエコ住宅化 ・ 通勤や買い物時のマイカー使用の抑制、公共交通の利用、エコドライブの実践 等
事業者	・ 事業活動における省エネルギーの推進 ・ オフィスの省エネ化、再生可能エネルギーの導入 ・ エコドライブの実践、買い替え時の環境にやさしい自動車の導入 ・ エコモデル住宅・マンションの啓発 等
区民活動団体 (商店街、自治会等)	・ 地域コミュニティ単位での省エネルギーの推進 ・ 商店街の街路灯のLED化等、地域コミュニティ単位での省エネ化、再生可能エネルギーの導入 ・ 目黒区独自の見える化指標（エコロジカル・フットプリント等）の検討 等
区	・ 省エネ・再生可能エネルギー設備機器の情報提供、導入支援 ・ 省エネルギー建築に対する情報提供 ・ エコドライブ、環境にやさしい自動車の率先導入・普及促進 ・ 街路灯等のLED化推進 ・ 中長期的な視点での目標設定・施策の展開 ・ オフセットの仕組み検討、導入（区民出資発電所、区外での森づくり） 等



エコドライブ



省エネナビ